

日産車体株式会社

# 2020年度 決算説明

---

(2021年3月期)



2021年5月

2020年度 通期決算

# 2020年度の出来事と主な成果

## 【全ての活動を支える経営基盤の強化を推進】

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況においても、当社主力製品の商用車・特装車は各産業や公共サービスに欠かせないことから、感染予防を徹底したうえで生産運営を継続。

### [1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 外観変更に加え先進安全装備を充実させた新型エルグランドの生産を開始
- NV350キャラバンの特別使用車 プレミアムGX BLACK GEARの生産を開始
- ナビゲーションを大型化し、外観を変更したアルマーダのマイナーチェンジを実施

### [2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 2020年の品質調査で、アルマーダがラージSUVセグメントにおいて、初期品質、商品魅力度共に一位を獲得

### [3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV車特有の車体構造に特化した生産技術の開発
- 次世代のフレーム車に向け、必要な技術開発への取り組み

# 決算サマリー

緩やかな生産回復基調にはあるものの、感染症のまん延などにより、生産台数が大幅に減少し減収減益となる

## 売上台数

年度前半の大幅な減産が響き、26.3%減の13.4万台

## 売上高

台数の減少などにより27.3%減の3,628億円

## 営業利益

売上台数、モデルミックスの悪化による粗利益の大幅な減少により、94.8%減の4億円

## 親会社株主に帰属 する当期純利益

保有不動産の売却により特別利益が増加したものの、固定資産の減損損失の計上などにより、67.1%減の19億円

## 設備投資

新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び諸施設の改善などの投資を中心に約68億円

2020年度 通期決算

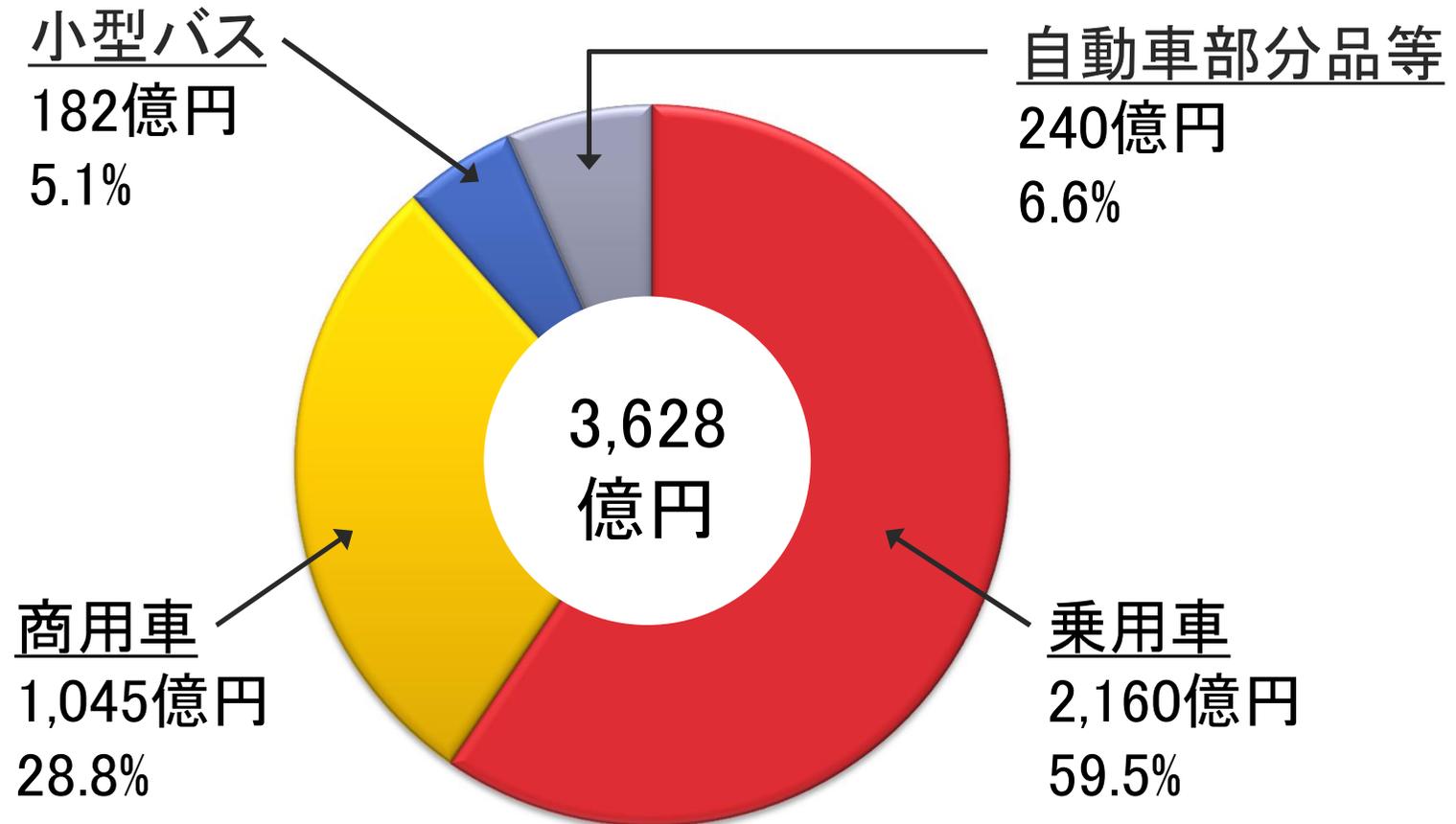
# 業績ハイライト

	2019年度 (2020/3)	2020年度 (2021/3)	増減額	増減率
売上高	4,988	3,628	▲1,360	▲27.3%
営業利益	93	4	▲88	▲94.8%
経常利益	98	19	▲78	▲79.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	58	19	▲39	▲67.1%

単位:億円

2020年度 通期決算

## 品目別売上高構成比

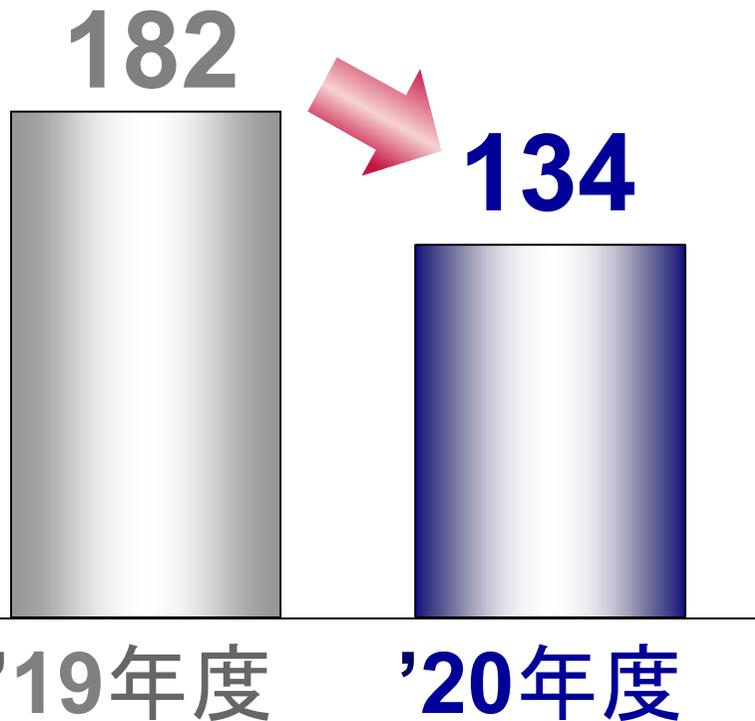


2020年度 通期決算

# 売上台数

緩やかな回復基調にあるものの、年度前半での大幅な減産により、前年同期比26.3%減の134千台

(千台)



(千台)

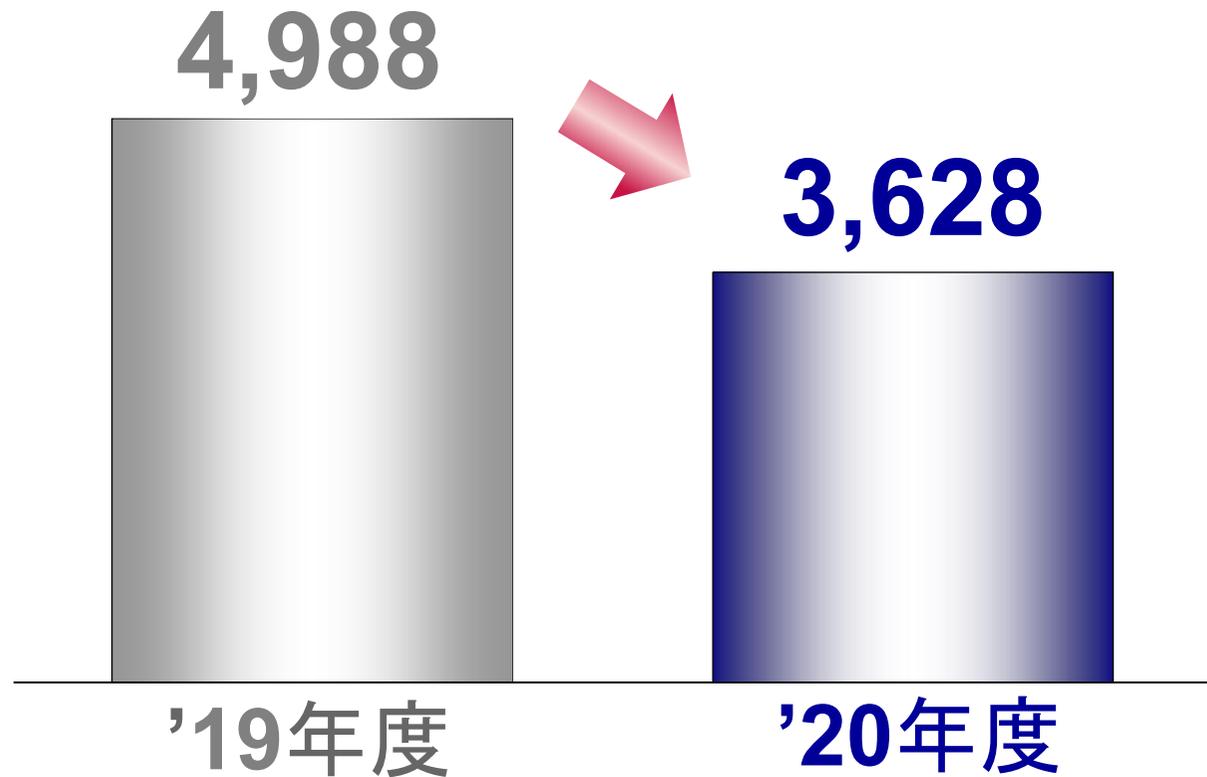
	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	93	61	▲34.9%
商用車	67	66	▲2.4%
小型バス	22	8	▲62.6%
合計	182	134	▲26.3%

2020年度 通期決算

# 売上高

極めて厳しい経営環境の中、売上台数の減少等により、売上高は前年同期比27.3%減の3,628億円

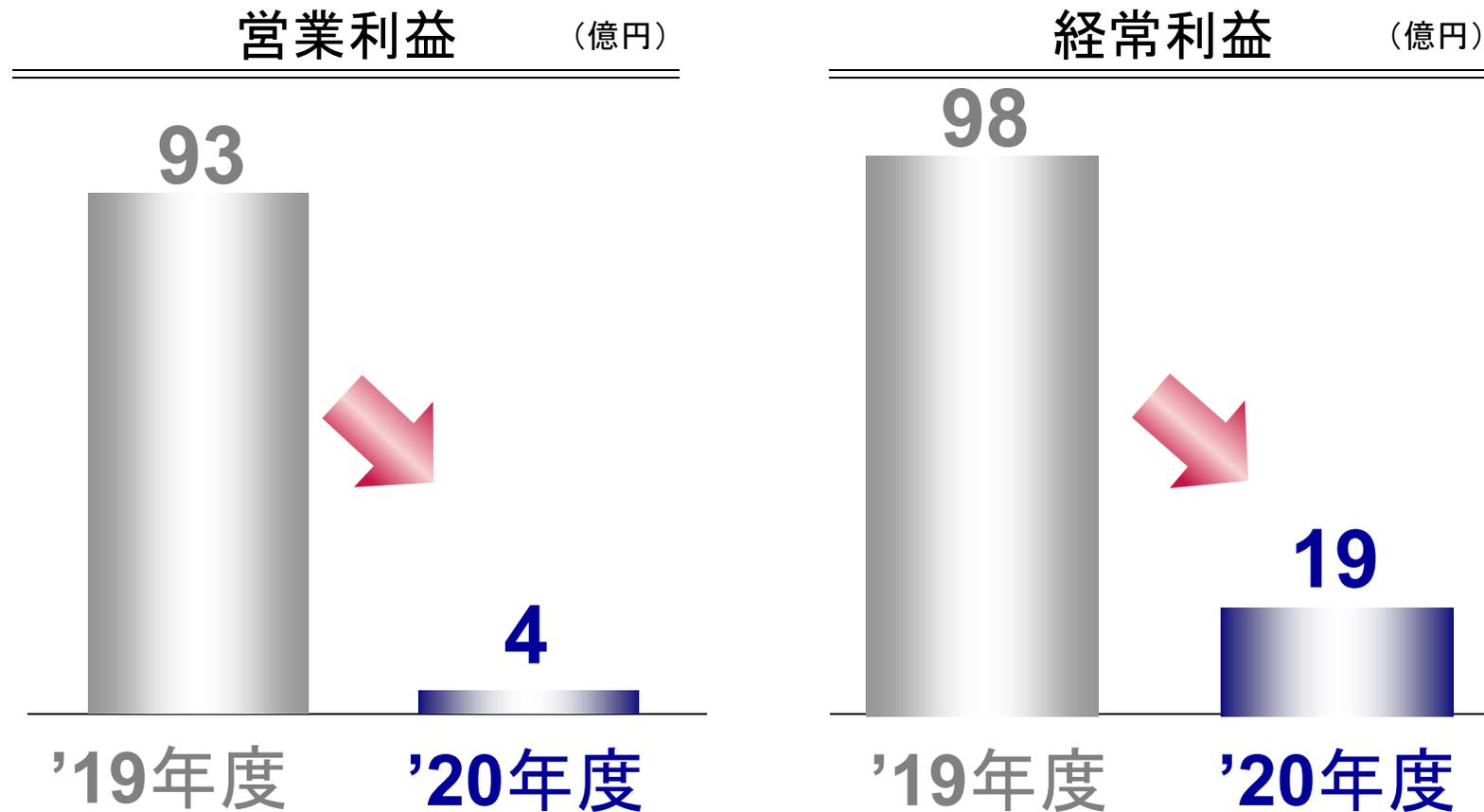
(億円)



2020年度 通期決算

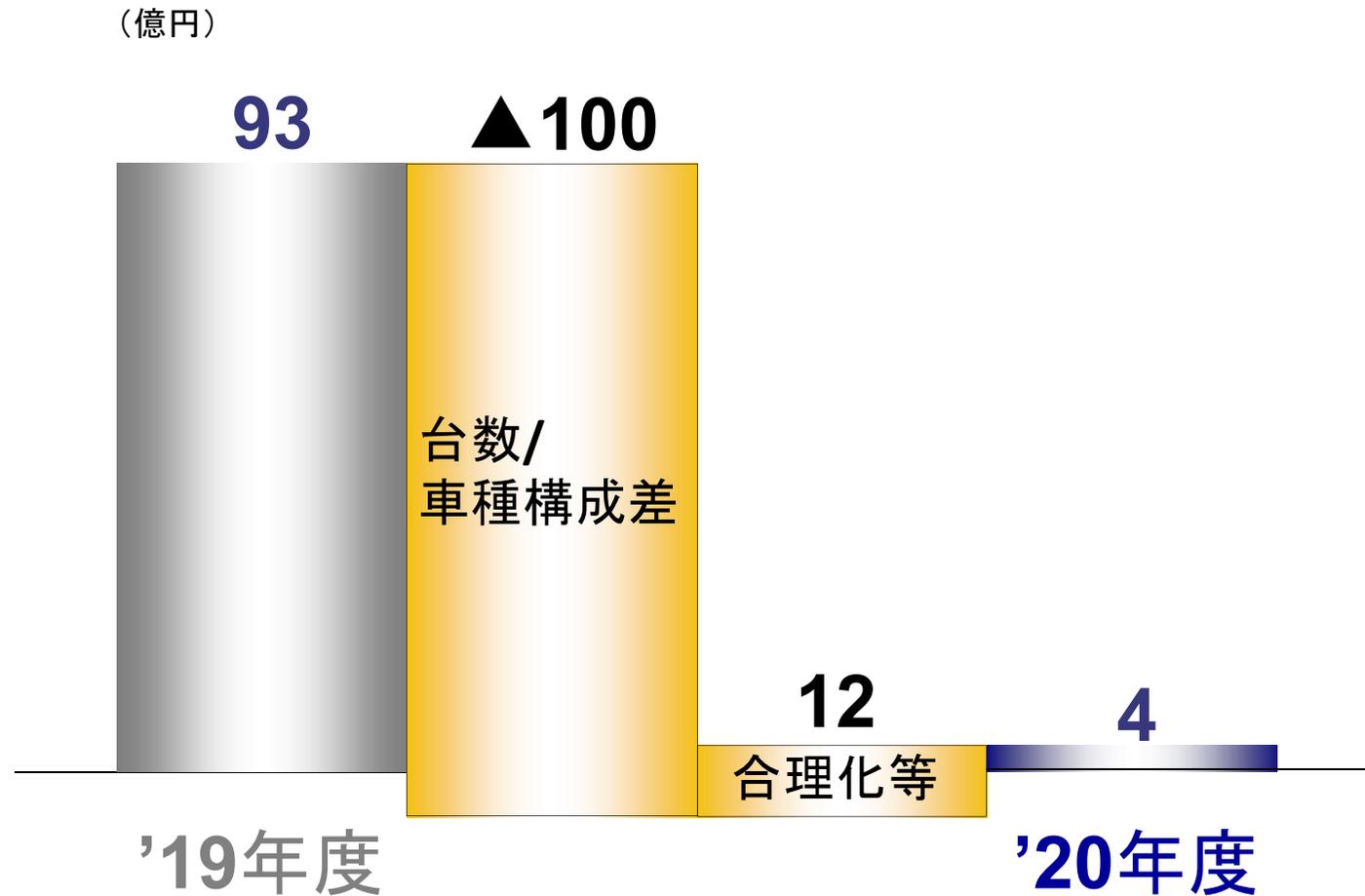
## 営業利益／経常利益

減収及びモデルミックスの悪化により、営業利益/経常利益とも前年同期を大幅に下回る



2020年度 通期決算

# 営業利益の増減要因

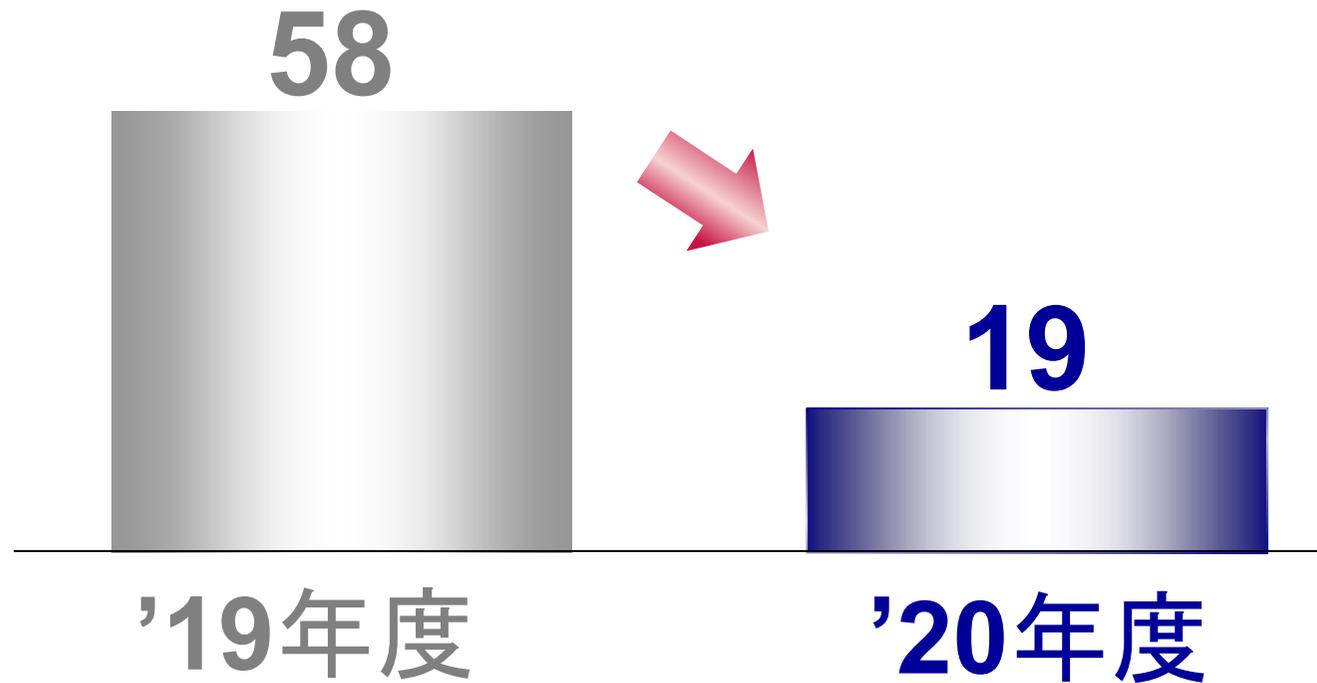


2020年度 通期決算

## 親会社株主に帰属する当期純利益

保有不動産の売却により特別利益が増加したものの、固定資産の減損損失の計上などにより、67.1%減の19億円

(億円)



# 2021年度 連結業績見通し

---

# 2021年度の主な取り組み

## <取り巻く環境>

引き続き新型コロナウイルス感染症のまん延による消費マインドの低下や、世界的な半導体不足による生産活動の停滞が懸念されるなど、不透明な状況が続く

## <主な取り組み>

### [1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 新しい燃費・排ガス規制対応による、LCV各車の競争力向上に取り組む
- コンバージョンの売上拡大を目指す

### [2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 当社の強みである開発から生産まで一貫したモノづくり体制を活かし、品質、コスト、スピードの競争力向上に取り組む

### [3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV・フレーム車の将来を見据えて、必要な社会要件や商品競争力向上アイテム、先進ITS技術等の適用に向けた技術課題に取り組む

2021年度 業績見通し

## 2021年度の業績予想

引き続き新型コロナウイルス感染症のまん延による消費マインドの低下や、世界的な半導体不足による生産活動の停滞が懸念されるなど、不透明な状況が続くことが予想される。

	2020年度 (実績)	2021年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	3,628	4,126	498	13.7%
営業利益	4	78	74	—
経常利益	19	84	65	328.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	52	33	174.2%

単位:億円

# 株主還元

---

2020年度 1株当たり配当金

# 株主還元

継続的な安定配当を基本に、年間13円を予定

